

平成26年度教育事業

「東北地区学校教育に活かす体験学習指導者講習会（6月開催）」

事業報告書

1 趣旨

体験活動の手法や考え方について体験を通して学び、集団の中で望ましい人間関係づくりや個人の自己肯定感を高めるための指導技術を身につける。

2 主催

独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立花山青少年自然の家

3 協力

(株) プロジェクトアドベンチャージャパン
みやぎアドベンチャープログラム (MAP) 研究会

4 後援

青森県教育委員会、岩手県教育委員会、宮城県教育委員会
秋田県教育委員会、山形県教育委員会、福島県教育委員会

5 期日

平成26年6月14日（土）～6月15日（日） [1泊2日]

6 参加対象と人数

学校教育関係者、青少年教育関係者、NPO法人関係職員、学生、その他興味をお持ちの方 30名

7 参加状況

	宮城県		岩手県		山形県		福島県		青森県		愛知県		計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
学校教育関係者	5	8	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	15
青少年教育関係者	3	1	1	0	1	0	2	0	1	0	1	0	10
学生	0	3	1	0	1	0	0	0	0	1	0	0	6
その他	0	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	3
計	8	14	2	0	4	1	2	0	1	1	1	0	34
	22		2		5		2		2		1		

※H26年2月開催に参加し、今回も参加の方・・・8名

8 日程

	6月14日(土)	6月15日(日)
午前	◇受付 9:30(事務室側玄関ホール) ◇開講式 10:00(大研修室) ◇実習1 10:20~12:00(大研修室) 「学びあう関係づくり」 (株)プロジェクトアドベンチャージャパン トレーナー 高野 哲郎 氏 MAP研究会 土生 直樹 氏 菅野 公司 氏 滝野澤 純子 氏	◇実習3 9:00~12:00(冒険の森) 「信頼感を高めるグループワーク」 (株)プロジェクトアドベンチャージャパン トレーナー 高野 哲郎 氏 MAP研究会 土生 直樹 氏 菅野 公司 氏 滝野澤 純子 氏
午後	◇実習2 13:00~17:30(冒険の森) 「課題解決型グループワーク」 (株)プロジェクトアドベンチャージャパン トレーナー 高野 哲郎 氏 MAP研究会 土生 直樹 氏 菅野 公司 氏 滝野澤 純子 氏	◇演習 13:00~15:00(大研修室) 「学びをふりかえる」 (株)プロジェクトアドベンチャージャパン トレーナー 高野 哲郎 氏 MAP研究会 土生 直樹 氏 菅野 公司 氏 滝野澤 純子 氏 ◇まとめ 15:00~15:10(大研修室) ◇閉講式 15:10~15:20(大研修室)
夜	◇講義・演習 19:00~20:30(大研修室) 「体験を学びにつなげる手法」 (株)プロジェクトアドベンチャージャパン トレーナー 高野 哲郎 氏 MAP研究会 土生 直樹 氏 菅野 公司 氏 滝野澤 純子 氏	

9 実施状況

企画のポイント

本事業は年2回実施になり3年目を迎える。宮城県ではPAの考え方を学校教育に導入しており、MAP(Miyagi Adventure Program)研究会を立ち上げた経緯がある。また、本所でも「はなやまアドベンチャー教育:HAB」としてPAの体験学習法を取り入れており、フィールドには冒険の森というロープスコースを設置している。

今回の参加者34名は、学校教育関係者が半数を占めるものの青少年教育関係者、教職を志す学生などであった。実施にあたってはPAJ講師1名、MAP研究会講師3名と本事業の方向性を確認しながら進めて行った。講師との企画段階の打合せで、今回の本事業のテーマを「アクティビティの力を知る」と設定し、数々のアクティビティを体験することによってグループの力が高まっていくことを体験してもらうことにした。特に、本所でしか体験できないロープスコースを活用したアクティビティを充実させ、PAの有効性を知ってもらいたいと考えた。

【6月14日（土）】

◇実習1「学びあう関係づくり」：大研修室

開講式後、本事業のねらいを講師の高野氏から説明していただき、アイスブレイクとして様々なアクティビティを展開していった。ジャンケンを使ったアクティビティ、互いのイメージを共有しあうアクティビティなど、参加者同士の関わりを意図的に設けることで気持ちをほぐし、お互いの心の距離を縮めていった。

参加者の中にはPAのアクティビティを体験するのが初めての方も多く、活動を楽しみながら互いの関わりを深めていくことを体感できた。硬かった表情も時間とともにしだいに柔らかくなっていった。



『ウブツカードで共通物探し』



『大きさ比べ』

【アクティビティリスト】

○口に三画たした漢字 ○大きさ比べ（耳、10センチ、1尺、10フィート） ○ラインナップ（言語によるコミュニケーションなし） ○じゃんけん5回負け ○キャッチ ○ウブツカード（共通物探し、鬼ごっこ、一つの円、、、）

◇実習2「課題解決型グループワーク」：冒険の森

大人数では互いの関わりが薄くなるなどのことから、午後の実習では34名を「花チーム」「山チーム」の2つのグループに分けて活動を進めていくこととした。各チーム講師2名が課題解決型のアクティビティに取り組みせ、グループとしての結束力、信頼関係が高まっていくことを体験してもらった。道具を用いないアクティビティとロープスコースにあるローエレメントを使用したアクティビティを組み合わせ、実習を進めていった。ローエレメントを使用したアクティビティでは、海や川などをイメージさせて参加者に危機感を持たせ、より互いに知恵を出さなければ課題解決できない場面設定とした。失敗を繰り返しながら、慎重に且つ励まし合いながら課題解決に取り組んでいった。互いの力を合わせてようやく課題が達成されたときにはチームとしての達成感が生まれ、歓声が上がっていた。



『あやとり』



『TP シャッフル』



『ニトロクロッシング』



『アイランズ』



『ジャイアントシーソー』



『フルバリューカードでふりかえり』

【アクティビティリスト】

◇花チーム

○ネーム回し ○バナナ鬼 ○TP シャッフル ○ミラーストレッチ ○ガッチャン鬼 ○トライ
 アングル鬼 ○あやとり ○ふりかえり(3,4人で) ○ジャイアントシーソー ○ふりかえり(こ
 とだま集め) ○チキンベースボール ○アイランズ ○フルバリューカードでふりかえり

◇山チーム

○ピンボール ○ネームトス ○三身一体 ○ガッチャン鬼 ○あやとり ○あやとりタイムト
 ライアル ○TP シャッフル ○ジャイアントシーソー ○ディフェンスタグ ○ニトロクロッシ
 グ ○フルバリューカードでふりかえり

◇講義・演習1「体験を学びにつなげる手法」：大研修室

夜間の講習では1つのチームをさらに2つに分け、計4つのグループを作った。参加者全体が交流できるアクティビティを体験した後、4つのグループに分かれ今日の活動の気づきと明日への抱負を共有して目標を小さなビーイングにした。参加者同士、お互いの気づきを共有することで新たな気づきが生まれた。また、目標をビーイングにして共有することで、グループとしての互いのつながりが意識され、一日の活動を通してグループの人間関係がより深まってきたことが実感できた。



『ピークアフー』



『ビーイングで目標を共有』

【アクティビティリスト】

○2人組みでハブユーエバー ○ルックダウン ○ユーミーリサ ○ピークアフー ○Cゾーンアンケート（卓上指差しVer） ○ミニビーイング（グループごとに） ○個人ごとの今日の気づきと明日への豊富をシェア

【6月15日（日）】

◇実習3「信頼感を高めるグループワーク」：冒険の森

2日目の午前中はロープコースのハイエLEMENTを使った実習を行った。昨晩分かれた4つのグループで、グループごとにビーイングを見て目標を確認した後、ウォーミングアップのアクティビティに取り組んだ。

その後、一人一人の命を守る装具の装着の方法やチャレンジャーの命を預かるビレイの方法を PAJ の高野氏から学んだ。初めての方が多く、お互いに確認をしながら進めていった。MAP 研究会菅野氏の実演の後、参加者がグループ毎に4箇所に分かれて取り組んだ。2人でチャレンジするELEMENT、1人でチャレンジするELEMENT、いずれも自分に合ったレベルでチャレンジしてもらった。チャレンジャーの命を預かるビレイヤーにかかる責任は相当なものがあり、分担された役割を真剣にチームワークよく行っていた。チャレンジャーとビレイヤーが一つとなった挑戦が各ELEMENTを使って行われたが、挑戦が終わり、無事地面にチャレンジャーが着地すると、拍手で迎えたりハイタッチしたりする場面が見られ、お互いの信頼感が高まり、グループの結束力が高まっていった。



『装具について説明する高野氏』



『手つなぎトラバース』



『ジャイアントラダー』



『キャットウォーク』



『バンパープランク』



『チームでのビレイの様子』

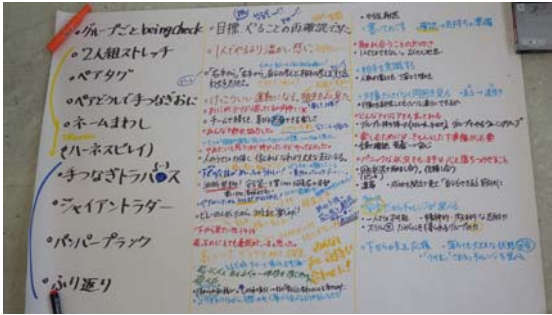
【アクティビティリスト】

- グループごとにビーイングチェック
- 2人組みストレッチ
- ペアタグ
- ペア同士で手つなぎ
- 鬼
- ネーム回し
- ハイエレメントのハーネス、ビレイについて
- キャットウォーク
- 手つなぎ
- トラバース
- ジャイアントラダー
- バンパープランク

◇演習「学びをふりかえる」

午後は2日間のふりかえりを行った。「アクティビティの力を知る」というテーマで進めてきたことを踏まえ、アクティビティの中で気づいたことや感じたことを挙げ、どんな学びがあったかを模造紙にまとめていった。模造紙にまとめていく中で、互いのグループ形成の中で何が起こっていたのか、どんな言葉がけがあったのかを掘り起こし書き記すことができた。言葉に書き起こすことで、グループの力が高まる要素が明確になっていった。

グループでのふりかえりを終えた後、個のふりかえりの時間を設けた。自分が2日間で何を学んだか、また、これからどう活かしていくかなどを紙面にまとめていった。個のふりかえりからは、それぞれのフィールドをイメージしながら活かしていこうとする気持ちが強く感じられた。



『アクティビティからの学び』



『個のふりかえりの時間』

10 成果と課題

【成果】

- ・天候に恵まれ、受講者が安全に多くのアクティビティを体験することができた。アクティビティの体験を通して自身が所属するグループの成長を体感することができたことから、「アクティビティの力を知る」というテーマに沿った事業であったと言える。
- ・講師との綿密な打合せにより、より効果が高いグループ編成を考えプログラムを進めることができた。そのことにより個の活動を保証し、参加者それぞれのニーズやレベルに応じた体験を提供することで満足度の高い事業にすることができた。
- ・花山ならではの研修としてエレメントの活用を多く図った。参加者が普段のフィールドでは利用できないものを用いて研修を進めることで、花山のフィールドの活用方法を知ってもらうことができた。初めての参加者には、特にPAの楽しさや効果を知ってもらうことができた。
- ・MAP研究会には3名の講師を確実に毎回派遣していただいている。事業を通して協力体制が確立し、講師の方々のスキルアップにもつなげることができている。

【課題】

- ・これまでの反省から夜の研修の時間が昨年度より30分短縮された。そのため、PAに関する言葉の理解（チャレンジバイチョイス、フルバリュー等）について十分な説明ができなかった。
- ・34名と参加者が多く、午後のローエレメントを使う研修では、2グループでは多かったように思われる。また、ローエレメントの使用にこだわりすぎたところもあった。
- ・普段ロープスコースを利用しないMAP研講師にロープコースの安全まで求めるのは難しいと思われる。専門の講習を受けたスタッフが安全面を担当し、MAP研究会の先生方が声がけするような体制が望ましいのではないかな。
- ・参加者の出入り（途中抜け、1日だけの参加）によってグループの編成が難しかった。2日間通して参加という条件にした方がよいと思われる。
- ・参加者アンケート等からは本研修会の成果や効果といったものが十分に伺える。ただ、エレメントの活用や指導体制、体験学習におけるPAの位置づけや活動場所の確保など、所として今後考えていかなければならない現状もある。指導者の育成は重要な教育事業と考えており、本研修を含め、指導者育成に関する教育事業に関して、今後時間をかけて検討していきたいと考えている。